《ユース・ムーブメント～核兵器をなくす私たちの取り組み》第７回

「第１回　信州の若者がつむぐ平和創造フォーラム」、略して若造フォーラムを行いました。

（2025 年 7 月 5 日、長野県松本市）

光武鮎（長野反核医療者の会、松本強制労働調査団）

＜きっかけ＞

この企画は、２月に東京で開かれた「核兵器をなくす国際市民フォーラム」からヒントをもらいました。核兵器というテーマを多角的に捉える約 40 もの企画が同時進行する様子は圧巻でした。まるで文化祭のような活気に「地元でもできたら素敵だな」と感じ、長野県からの参加者たちに声をかけたら、みんな積極的でした。県内の色々な団体と協力して実現することができました。

＜なぜ若造？＞

「若造」には未熟者というネガティブな意味がありますが、あえて自ら名乗ることで「若くても、未熟でも、戦争や平和のことは自分たちの問題として考えたい！」という熱意が伝わるかと思います。長い間活動を繋いできてくださった先輩方への敬意も込められています。

＜プログラム紹介＞

●ヒバクシャの願いをつなぐプロジェクト：

長野県内の教職員や医療従事者などが、県内の被爆者や被爆二世が80年間抱えてきた思いや願いを聞き取り、映像・冊子にするプロジェクトです。この冊子は 2025 年６月に完成し、県内の小中学校・高校に配布されました。実際に冊子を使って中学校で授業をした様子や生徒の感想が報告され、被爆者の願いが中学生につながったと実感しました。

●沖縄と私たち：

信州大学の学生を中心に沖縄の基地や貧困などの問題を「自分事」として考えたい、という思いで発足した団体。沖縄戦と長野県、沖縄と貧困・基地問題などのトピックについて、クイズを用いたワークショップをしました。

●本読みデモ企画：

パレスチナ／イスラエル問題を中心に、「知る・考える・意見を交わす」ことを共有できる場を開いています。当日は関連する本や資料を並べて、自由に読んだり話したりできる場を作りました。

●しろうと文庫：

イスラエルやパレスチナについて調べ、SNS で発信しています。当日は、私たちにもできることとして、「差別に投票しない」というメッセージの漫画を大きな模造紙で展示したり、パレスチナの歴史をわかりやすく解説した資料を用いて対話の場を作りました。

●松本市戦時中写真カラー化プロジェクト：

高校生が授業の一環で、戦時中の松本市の白黒写真を AI でカラー化しました。「戦前の松本の風景」「旧陸軍松本 50 連隊」など約 80 年前の景色を見比べながら、戦時中の社会を身近に感じられる展示になりました。

●満蒙開拓と平和教育：

満蒙開拓団に送り出した人数は長野県が最多です。開拓団を語り継ぐ展示施設とも連携し、中学校での平和教育の様子を報告しました。

●松本強制労働調査団：

1990 年から戦時中の松本市内の強制労働の聞き取り調査や戦争遺跡保存をしている団体。今回は戦時中に朝鮮人の強制労働で建設された、地下の軍事工場について、労働者の証言を朗読し、映像を見てズリ（岩くず）を手にしてもらいながら、当時の労働の様子や植民地政策について話し合いました。

＜対話の広がり＞

一見別々のテーマですが、参加者の思いには共通するものがあります。それは、暴力による支配・戦争の構造に目を向けること、それを自分ごととして捉えること。当日は「普段は来ないような人が真剣に話を聞いてくれた」「取り組んできたことは違うけど、同じ問題意識で繋がる部分もあった」と、予想以上の出会いや学びがありました。一つのテーマで活動していると、興味を持つ人が少ない…と悲しくなることもありますが、他分野に目を向けてみると、同じ思いを持つ仲間がたくさんいることがわかり元気が出ました。

今回１回目ですが、すでにまたやりたいという声が上がっています。年齢や経験に関わらず、私たちが日々感じる不安や大切にしたいことを、平和と繋げて語り合える場として、今後も続けていきたいです。

（みつたけ あゆ）